

## 第1回 青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会 議事録

日 時：平成28年6月1日（水）16時00分～17時55分

会 場：市役所本庁舎2階 第五委員会室

出席委員：阿部委員，稲葉委員，籠橋委員，齋藤委員，榊原委員，鈴木委員，本江委員，  
脇坂委員，渡部委員（計9名）

欠席委員：黒田委員，宮原委員（計2名）

事務局：建設局：建設局長，建設局次長，百年の杜推進部長，百年の杜推進課長，  
公園課長，公園課主幹兼青葉山公園整備室長，同施設管理係長，  
同青葉山公園整備室主査（計8名）

文化観光局：観光課長，同にぎわい創出係長（計2名）

教育局：文化財課長，同課仙台城跡史跡調査室長（計2名）

司 会：公園課主幹兼青葉山公園整備室長

### 次 第

1. 委嘱状交付
2. 副市長あいさつ  
【委員，事務局紹介】
3. 開会
4. 座長及び座長代理の選任
5. 議事  
【懇話会の運営について】  
【懇話会の進め方について】  
【青葉山公園（仮称）公園センターの計画について】
6. その他
7. 閉会

## 1. 委嘱状交付

市長が、他の公務のため、代わりに稲葉副市長が、各委員の前に移動し委嘱状を交付する。

(黒田乃生委員、宮原育子委員は、所用により欠席につき、後日、本懇話会の説明と同時に交付する。)

## 2. 副市長あいさつ

### ○稲葉副市長

- ・ 皆様におかれましては、各界でそれぞれご活躍でございまして、大変お忙しい中、公園センターの整備に関する懇話会の委員をお引受いただき、また、本日 1 回目の会にご出席をいただき、ありがとうございます。

青葉山公園の周辺は、仙台城跡としての歴史的な風土、青葉山や広瀬川の豊かな自然、博物館、東北大学と、仙台市の魅力が集中している、仙台市を代表するエリアでございます。杜の都仙台、学都仙台を象徴する地域という風に申し上げられようかと思えます。

これまで、青葉山公園の整備計画は、いろいろな事情があり、なかなか進まないということがございました。そういう中で、観光の面など、市民の皆様からも様々なご意見、あるいはご提案というものを頂戴してきた経過がございます。

また、国際センターや昨年 12 月に東西線が開業したこともございまして、大規模な国際会議、あるいはコンベンションが開催され、国内外の様々な交流が生まれるというようなエリアでもございます。

今後、さらなる魅力的なエリアとして成長していくものと予想、期待をしておりますし、そうしていかなければいけない地域でもあろうかと思っております。

青葉山公園に建設を予定しております公園センターにつきましては、この魅力あるエリア、機能を十分に活かして、また、仙台発祥の地ともいえます仙台城跡への玄関口として、杜の都仙台の歴史、そして文化を紹介し、国内外からのお客様をお迎えし、おもてなしが出来るよう、整備していかなければいけないという風にも思っているところでございます。

この懇話会では、公園センターの持つべき機能、あるいは整備のイメージ、運営の手法などについてご議論をいただき、公園センターがより魅力的な施設になるよう計画に反映をさせてまいりたいという風に思っております。

委員の皆様には、それぞれ専門の立場からの忌憚のないご意見を頂戴いたしますようお願いを申し上げまして、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 【委員、事務局紹介】

(委員名簿・事務局名簿等により紹介)

### 3. 開会

(資料確認)

### 4. 座長及び座長代理の選任

本江委員を座長，宮原委員（当日欠席）を座長代理に選出

### 5. 議事

#### 【懇話会の運営について（資料3）】

(事務局による資料説明)

事務局：仙台市では，会議は原則公開。

会議では議事録を作成し，それに対してどなたか署名をしていただきたい。

議事録の署名人は，座長が指名した1名とすることを想定。

全委員：事務局の提案に異議なし

#### 【懇話会の進め方について（資料4）】

(事務局による資料説明)

事務局：懇話会は，10月までに4回開催，1回約2時間程度としたい。

議論の内容による開催回数等の変更も想定。

委員：現地見学の必要性について意見

事務局：次回以降に現地見学を開催したい。

全委員：そのほか事務局の提案に異議なし

#### 【青葉山公園（仮称）公園センターの計画について（資料5）】

(事務局による資料説明)

#### ○阿部委員

- ・観光，特にインバウンドの視点から話しをさせていただきます。
- ・現在，観光インバウンドにおいて，日本に2千万人来ており，2020年までに4千万人にするという話の中で，年間を通した来訪者の平準化が必要という話があります。
- ・公園センターの計画の中にも，なごみの庭や桜の小径とありますが，特に東北はインバウンドも含めた観光客が，桜の時期や夏祭り，紅葉の時期に多く，最近一番多くなってきているのは，今の新緑の時期です。
- ・特にCNNで放映したこともあり，昨年辺りから栃木県の足利フラワーパークの藤棚

に、インバウンドの多くの観光客が来ています。

- ・公園センターの計画の中に桜の小径とあるが、単純に桜の小径とするのではなく、仙台は新緑の時期が良いので、シンボライズになるような花や、年間を通して平準化されるようなイメージの植栽、自然の安らぎを感じられるエリアとして考えても良いと思います。
- ・本当の地域活性化と言った時、ただ来れば良いのではなく、どの時期かという、年間を通じた交流人口の平準化を考えた中で、しっかりとしたマーケットイン、プロダクトアウトといった発想の中で上手く戦略的なものを交えて考えれば良いと思います。
- ・楽しみと憩いの部分に関しては、現在、観光庁もユニークベニュー的な考えを持っており、海外で既に行われている博物館や美術館でのパーティーなどは、日本では、まだまだ出来ていない。国でも迎賓館をどうやって開放するのかという話をしています。
- ・そういう発想の中で、特に公園センターの周辺エリアには東北大学など、いろんな面での特別色が出るような施設があることから、ソフトもハードも含めて考えたら良いと感じます。
- ・これからいろいろな事例も含めて上手くアドバイス出来ればと思います。

(注釈：インバウンド…外国人旅行者を自国へ誘致すること。

マーケットイン…顧客視点で商品の企画・開発を行い提供していく方法。

プロダクトアウト…商品開発や生産を行う上で、作り手の理論を優先させる方法。

ユニークベニュー…歴史的建造物、文化施設や公的空間等で、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場のこと。)

#### ○稲葉委員

- ・公園センターが具体的にどういうものを想定しているのか、仙台城跡にあるガイド施設や秋保の里センター等、観光案内所的な機能がある施設だけではないものを造りたいのだろうと想像するが、ともすると観光案内所だけになってしまう恐れを一つ、感じます。
- ・市観光課の仕事にも携わっており、昨年度はまちなかを歩く、まちなかつァーというものを作りました。その中で感じたことは、色々な所に行くとその地域、例えば、仙台城を説明する専門家、瑞鳳殿を説明する専門家という方がいる。その場所では、専門家が話すため、初めて仙台に来て伊達政宗のイメージしか知らないままに瑞鳳殿に行くと、瑞鳳殿についての話を始めるため、概略が分からないまま、ピンポイントな説明を受けることになります。
- ・この場所が仙台全体でどういう場所か、伊達政宗がどんな人なのかという基礎知識を入れられるような所で、そこから仙台城跡や瑞鳳殿、松島など、自分の興味に合わせた場所に行ける、基礎知識が与えられるような所だとすごく良いと思います。

- ・る一ふる仙台や市バス，地下鉄というアクセスがあるが，公園センターからどこかへ行くルートという公園センターからの動線というのも一緒に考えるべきだと思います。

○本江座長

- ・今の計画図では，この場所へのアクセスしか示されておらず，ゴール地点になっている。ここに来た人が，ここからどう出発して行くかという，スタート地点としてセットすると，随分違うイメージを持つ事になるだろうと思います。

○籠橋委員

- ・日本近世史，江戸時代史を専門にしております。
- ・計画段階の話では，遺跡保存には十分に配慮されているように感じられますが，広瀬川の河原に接する部分の石積の遺構保存についてどうするのか，桜の小径と重なっていないと思われるが，若干，懸念される所がある。あの辺りは，おそらく仙台城の創建と関わる遺跡として重要な所になると考えています。
- ・これまでに数年かけて片倉家屋敷の発掘調査が行われ，軍による削り取りによって，遺構は十分に確認できなかったという事実は残念だが，そういった事実も踏まえなければいけないと思います。
- ・イコール片倉家という形のイメージと結びづらくなると思うが，その遺構についてどのように保存されるのか，保存した上でそれをどのように公開し，広くみなさんに見ていただくのかという所について，少し考えていただければと思います。
- ・先ほどの稲葉委員からもありましたが，展示施設としての役割をどこにおくかという事は，もう少し深めて考えていけばいくほど，良いものなると思います。特に，片倉家という事に重心を置いてしまうと，白石城というそれを専門とした機関があり，そことの差別化やすみ分けを，ある程度考えていかなければ，展示内容という意味では不十分となると思います。
- ・期待しているのは，仙台藩の上屋敷の庭園を復元，遺構というものに配慮した庭園を造るということ，どこまでできるかというのはあるが，現在の利用と，かつての仙台藩の上屋敷のあり方というものを結び付けるようなものになってくれればと，個人的には大変期待しています。

○事務局（百年の杜推進部長）

- ・広瀬川の河川沿いの石積ですが，石積部分は河川区域ということから県の管理となっており，公園の計画も河川区域を考慮したものとなっています。
- ・整備する主体，役割分担から考えると県に依頼したいという考えもありますが，公園の整備が始まるということや，広瀬川にアプローチする一番いい場所だということも理解しており，公園センターを検討していく中で，仙台市で石積部分も含めて考えるべきであろうという内部の意見もあります。

○本江座長

- ・全体的な価値を高めるためにいうことだが，なかなか大変なことだと思います。

- ・上屋敷の庭園は、ある程度資料があり復元できそうなのか、その辺りのリアリティのレベルはどんなものか。

○事務局（公園課主幹兼青葉山公園整備室長）

- ・なごみの庭については、上屋敷の庭園を復元するということではなく、仙台に持ち帰った庭石を活用した庭園とすることで考えています。
- ・復元出来るだけの資料は残っていると思われませんが、庭石そのものが全てあるわけではないため、出来る限り庭石として活用するということになります。

○本江座長

- ・庭をまるごと復元するというのが、庭は生態系そのものなので、見かけだけ似せたとしてもどうかという所もあります。

○齋藤委員

- ・公園センターはどんな人が使うのかという事をイメージした時、利用者は市民、観光客、訪日客になると思うが、より具体的にイメージした時に仕事柄から考えると、教育旅行というのがあります。阿部委員からもありましたが、時期を平準化し、どんな事でお客様を呼んでくるのか。今の時期は、市民の利用もあるが、小学校や中学校の教育旅行の時期となっています。
- ・教育旅行の観点から利用する事を考えていくと、公園センターのインフォメーションがどうあって、引率する先生にとって、どういうものがあると公園センターを活用しやすいのか。例えば、引率の先生方は、待機場所が必要という事もあります。
- ・旅行そのものを見れば、生徒を集め、色々な約束事を決めた後、各施設を巡り、特定の場所への再度集合ということになります。現在は、仙台駅や勾当台公園を自主研修への出発地としていますが、そういう機能も果たせる場所となれば良いと思っています。
- ・地下鉄東西線が開業したことで、公園センターにバスで乗り入れたとしても、市中心部に出て来るのは楽になりました。そういった意味では良い条件が揃っていると感じています。
- ・あまり偏りすぎると身動きが取れなくなってしまう、変化に対応出来なくなると思うが、そういった視点、時期で動かしていく。その辺を意識した形でやっていくと、仮に教育旅行で、市民団体といった外部との連携ということも考えやすくなると思います。

○本江座長

- ・教育旅行ということで具体的な話がありました。「観光客」と抽象的に書いてあるがもう少し具体的なターゲットを決めたマーケティングをやらないといけないという事だと思います。

○榊原委員

- ・ここの魅力に気づき、市民の方にどうここを楽しんでもらうかという仕掛けづくり

に長年携わり、建築も多少携わりましたが、どちらかというユーザー目線から、公園センターの計画について、三点ほど話をさせていただきます。

- 一点目はソフト的な話ですが、先ほどの説明の中でいくつか役割があったのですが、まずはどれに特化するのかということです。何でも包含するが故に、結局は使いづらくなる場合もあり、何に特化するのかという事が必要だと思います。
- それを前提に、周辺にある既存の施設とどう連携するのか、例えば、先ほど稲葉委員からもあった基礎知識は、博物館でも学べるのではないかと思います。国際センター駅の一階は観光情報の場所があり、二階は市民活動にフリーに使える場所があります。今そこには、カフェが入っているという状況です。
- しかし、広瀬川は見えるが、身近に感じられる場所ではないというものもあるので、他の周辺の施設を含めて、すみ分けし、全てを入れ過ぎない方がいいのではないかと、何かに特化した方がいいのではないのでしょうか。
- 二点目はハード的な話ですが、公園センターの配置を、もう少し広瀬川沿いに出来ないかというものです。屋外テラスというオープンカフェのイメージがあります。河川敷沿いにカフェがあるようなイメージをつくり、大橋からのフォトジェニックな風景とすることが、一番そこに合うと思っています。
- 発掘調査エリアに限定してではなく、発掘調査していない箇所も含めて造ろうとすれば、再度発掘調査が必要になるのだと思うが、広瀬川との関わりをもう少し出来ないかということです。
- 三点目が官民連携です。昨日開かれた国交省の委員会で、新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方を見ますと、硬直的な都市公園管理、持続管理の延長での公園管理から、パラダイムシフトした地域との合意に基づく弾力的な運用やまちづくりに一貫したマネジメントという所に踏み込んでいます。5年後の公園センター完成の頃にはその流れが当たり前の時代になっているものと思います。
- これまでのような建築設計、建築後に事業者に入ってもらおうという話ではなく、出来れば、設計段階から民間に参加してもらいながら、良い空間をどう作り維持するかという進め方をしっかり意識して欲しいし、この懇話会の中でどこまで言うか、あまり言いすぎると縛りがかかってしまうと思うが、そこを意識して欲しいということです。
- また、官官連携の話もあるかと思いますが、先ほどの広瀬川の石垣の話ですが、官民連携よりも難しいかと思いますが、市と県との関わり、河川区域で県が管理している所の関わりを、どう仙台市が公園の中に取り込みながら進めていくのか。広瀬川も青葉山公園の一部、というぐらいの話をしていくべきだと思うので、官官連携というものも視野に入れて、この中の一部に入れるといいのではないかと考えています。
- 最後に補足的な話ですが、公園センターという名称は仮称なのですが、市民が思い

描く公園センターという、七北田公園の都市緑化ホールのイメージが定着してしまっているような気がします。そうではなくとも、それ以外のイメージがなかなか思いつかないので、ネーミングもしっかり考えていくべきだと思います。

- ・施設のある種概念的なネーミングになっていくと思いますので、この懇話会で議論する話ではないかもしれないが、市民のみなさんにお伝えする時に、それがイメージ出来るようなネーミングが必要だと思います。

#### ○本江座長

- ・公園センターという名前が良くないという事は、みなさんもそう思っているのではないのでしょうか。まず、名前が良くないという事を共有しながら、何か考えるという事はあるかと思います。
- ・ご指摘の機能、周辺の施設との役割分担、配置の事や広瀬川との関係はもう少し自由度があるべきかと思います。
- ・三つ目の官民連携のマネジメントなどの話は、後ほど脇坂委員からもコメントがあるかと思います。

#### ○鈴木委員

- ・榊原委員からもありましたように、何々センターというのでは無いだろうと思います。ネーミングは、覚えやすくインパクトがあるようなものが必要だと思います。
- ・私は、会社としてはイベント会社を経営しておりますが、商工会議所の青年部、通称 YEG という団体の青年部に所属しており、その立場も含めて、三点ほど話しをさせていただきます。
- ・一点目は、私が所属している YEG という団体は、全国に 411 団体あり、東北にある 45 団体の中で、仙台は 200 名を超える大きな団体で、関係者のみなさんを御案内する機会が多い団体でもあります。全国大会も数年前に行われ、また、被災地の応援に来られ、沿岸部を回った後など、仙台に寄られてお帰りになります。
- ・仙台を案内するにも、松島まで足を延ばすには時間が無い場合は、仙台城のデジタルの映像を見て終わりとなります。先ほど、稲葉委員の話にもあったように、仙台の全体が分かり、時間を有効に使えて、女性の方は買いものも出来るという所がなかなかないと思います。景色がすごく良い場所だと思いますので、こういうものがあるとすごく良いと思っています。
- ・二点目ですが、カフェ等で民間が参入してくることが、今後出てくるとは思いますが、大手のカフェではなく、地元にこだわり、一緒に新しい商品開発するなど、そこで会社を起こす人も出てくるとは思われますので、是非、私たちも出来ることをしていければと思います。
- ・最後に、先ほどイベント会社と申しましたが、カフェや空間には、備品の一つとして、よくある白いカフェテーブルをレンタルするのではなく、仙台の木で作られた素敵なテーブルとイスがあり、仙台市民がイベントや、私たちのような団体がここ



を借りる時に、それがあただけで素敵な空間になると思います。

- ・そういう物があることで、結婚式を挙げたいという人も出てくると思います。青葉の下で結婚式、インバウンドで言えば海外の方が着物を着てそこで写真撮影をするということもできると思います。そんなわくわくするような場になるよう、意見が反映されていくと良いと思います。

(注釈：YEG…日本商工会議所青年部：Young Entrepreneurs Group)

○本江座長

- ・カフェやイベントに使う等、仮設の什器の話もありましたが、使い方を具体的にするという意味では、そうした事も想像し、仕様に書き込むところまでではなくとも、何らかの記述の仕方を工夫して、基本計画の中に入れるような事もあると良いと思います。

○脇坂委員

- ・本省（国交省）で公園の整備や歴史・まちづくりの推進といった仕事に携わり、その関係で、仙台城の整備検討委員会の委員として、委員長の入間田先生のもと、石垣をどう復旧するかという、すごく細かな委員会にも参加しております。
- ・最近、仙台に限らず歴史文化を生かした都市のアイデンティティ形成というのは、日本全国のどこの都市でもやっているところです。
- ・例えば、新幹線が開通した金沢はその典型的な所で、他にもそういった所がありません。東北では弘前もその流れの中で行おうとしております。この公園センターの事業というのは、仙台は歴史系の所が弱く、そこを強化するという意味では非常に重要な事業であり、良いタイミングだと思います。
- ・少なくとも、誰がどんな公園を造ってもこの追廻地区が今のままより良くなるというのはあると思います。
- ・そういう思いで説明を受けると、全部納得してしまいます。ですが、全部納得するのですが、“待てよ”と感じる所があります。
- ・先ほど榊原委員からあった、注文が多すぎるというようなところです。全部真面目にやろうとすると、結果的に、出来たものがパツとしないものになります。
- ・まず考えるべき所は、今まで積み上げてきた経過があるから、こう造ります的な作業でなく、追廻地区に、これを造る事によって今までの青葉山公園の全体の問題点を解消し、この辺のエリアの価値を上げる、というような説明の仕方が、それぞれの条件をどうクリアするかというやり方よりも、良いのではないかと感じます。
- ・先ほど官民連携の話もありましたが、公園という不動産をどう良くして、公園そのもの、及びその周辺の街、さらには仙台市という価値をどう上げるかというようなことだと思います。
- ・籠橋委員の話しにもありました、文化財という遺構の保存などの制約はあります。そういった制約は当然あるでしょうし、公園全てを整備するわけではなく一部を整

備しますので、他の博物館や本丸跡とのアクセス、駅とのアクセスといった所も制約条件としてあるのですが、考え方としては、そういうスタンスに立てば、もう少しエッジの効いたものになるという気がします。

- ・文化財的な歴史を活かした街づくりという観点、利用者のニーズという点でもこだわるところはこだわりつつ、その上でこのエリア、公園自体がより良くなるのか、これを造ることによって博物館も、国際センターも良くなるというソリューションのような建物になると良いと思っていますので、この委員会には期待しています。

#### ○本江座長

- ・この施設があることで周辺との相乗効果によって、周りの価値が高まるというのは、その通りだと思います。今は確かに、どれも納得できるのだけど、いろんなことを引き受けますと言っているばかりで、何か攻めが足りないといえますか、エッジを効かせるべきというご指摘とありましたので、我々もあまり遠慮せずに進めていきたいと思っています。
- ・先ほどの官民連携で、公園のマネジメントの仕方が変わりつつある潮目という所の話、少し教えていただけるとありがたいのですが。

#### ○脇坂委員

- ・東京の上野公園を見れば分かると思うのですが、大手カフェチェーンだけでなく、レストラン等が入り、すごく活性化しています。今後、公園を単に管理してだけでなく、もっと集約したりすることもあっていんじゃないか、民間施設と一体に、例えばスーパーマーケットの隣に公園があれば、スーパーマーケットの管理者が一体的に管理することによって、お互いにぎわえば、それもありではないかということです。これから、公園をもう少し開いていこう、もっと柔軟に考えて行こうという方向になっていくと思われまます。
- ・従来型の道路のような公物管理の感覚ではなく、計画段階や、管理運営段階で民間に入ってもらい、その主体性をどう果たしていくかということだと思っています。

#### ○本江座長

- ・鈴木委員が言われたように、買物も出来る所も、昔の公園のイメージにあるような小さな売店があるだけというようなものではないものが出来てきています。
- ・アイデア次第で色々やらせてもらえるような形になる。文字通りエッジの効いた、公園とそのセンターという事になっていくと良いかなと思います。

#### ○渡部委員

- ・ランドスケープ領域の分野の事を専門にしていますので、そういった観点が中心となるかと思います。
- ・ここの場所の土地勘がなく、この間初めて訪れてみたのですが、まず、この公園センターの建設位置があまり分かりませんでした。私は、車でアクセスして気づいたのですが、橋を渡ってすぐの場所ということで、橋が視点場になると思いました。

橋の方向からの見え方というのはすごく重要で、建物や敷地全体もそうだと思います。

- その場に立ってみると、先ほどから話に出てきている広瀬川が、どう見えるのかと非常に興味を持って、河岸まで近づきましたが、なかなか感じられず、音も聞こえないというような状態です。もっと近づきますと、石垣が出現し、こういう物があるのだと発見したような気持ちになっていたところでした。先ほどから非常にみなさん重要視していることも分かりました。
- 管理の境界があるという話がありましたが、この公園を整備するには、河川の遺構をうまく見せて行くという事を取り込みながら、計画していくべきだと思います。
- 先ほど四季の話がありましたが、私が行った時は、野鳥の鳴き声がたくさん聞こえました。当然、花で四季折々を演出していくというのもあると思いますが、ガイドが付く時は、見えないものをよく見せていく、気づかせてあげるということができると思います。そういう意味で、周辺の既存の空間や敷地等を、引き立てていくような存在であるべきだと思います。
- 私は、今日山形から来ておりますが、わざわざやってきて、雨だったらどうしようというような事を考えると、ある程度その中で楽しめて帰れるという事も重要で、そこで周辺の観光施設、遺構への興味が深まれば、また来てみようという気になると思います。
- 青葉山交流広場という駐車場があることに全然気付かず、臨時駐車場がたまたまあったのでそこに止めたのですが、そこからどうやって歩いてくるのか、この敷地がどこまでオープンなのか分からなかったところでした。
- 先ほどから市民の利用や、川沿いの利用など、色々な話が出ておりますが、どこを閉じて、どこまでオープンで、というようなこともここを魅力的に使っていく上で、とても重要な切り分け方だと思います。
- 特に庭園を造った場合には、庭園の部分だけ閉じているとか、動線、管理上の事も考えていかななくてはいけないと思います。
- 日常的に市民が利用できるという所で、どういう風に開放するかという所がポイントだと思います。
- また、歴史・文化が重要なテーマになっていると思います。ここになぜ城を建てたのだろう、先人が自然の地理的な要素をどういう風に読み込んだのかということに非常に興味があります。
- 博物館も行ってみました。自然地理やそういったものの展示が少し弱いと感じました。模型もあるのですが、一方向しか見えず、エリアの自然全体、山や崖、川、それらに挟まれた敷地なので、うまく周辺のものを取り込みつつ、繋いでいくような空間整備が必要という事を今の段階では思っています。

## ○本江座長

- ・ランドスケープの立場からという事で色々とお話を頂きました。立体的な土地ですが資料には断面図がなく、計画地と広瀬川の水面の高さとのギャップがどのくらいあるのかとか、仙台城跡の所まではどういう断面構成になっているのか、緑地ではあるが、ほとんど歩いて上がれないとか、そういうような立体的な話が必要だということを感じました。
- ・また、川の音が聞こえないことや、野鳥の音がするなど、音の話が印象的でした。
- ・どうしても写真映りや、見栄えの事を気にしてしまいますが、音の環境というような事についての意識も課題に入ってくると面白いと思います。これから、車が電気自動車になり、騒音のレベルが変わってくれば、また違う未来像があると思っていましたので、そこは大事だと思います。
- ・私からは四点ほど話をします。
- ・一点目は、利用者のイメージの問題です。齋藤委員から、もう少し具体化しないといけないという話がありました。具体的な例として、修学旅行という話がありましたが、逆の方向に話を振ると、ここに出てくる内容は、お客さんが来てフルサービスの店番がいて、何かを買ってもらう、博物館を見てもらう、対来場者歓迎のイメージだと思います。仙台市の自慢の市民力を使うということ言えば、お客さんに来てもらって何か買ってもらう、それに対するお店をきっちり用意する、という関係だけではなく、ボランティアが、半分ユーザー、半分サービス・プロバイダーのような形で積極的に関わるような仕組みがあると良いと思います。
- ・具体的には、そういう人たちの為の控えるスペースがあり、色々持ち込むことが出来るようにする。先ほどの野鳥の話で言えば、バードウォッチングをサポート出来るような団体の人たちが来て、野鳥の話や望遠鏡で見せるということをやってもいいです。仙台のボランティアグループが、他の地域に比べて非常に層が厚いという事は自慢であり、非常に重要な地域資源なので、その人たちの出番をきちんと作るようにするということが出来れば良いと思います。
- ・それはアートや、自然に触れ合う事、歴史・文化、色々なレベルであります。私が、直接関わっている事を例に挙げれば、震災メモリアルの活動も沢山のグループが色々な事をやってくださっているおかげで、普通とは違うレベルの展示や、活動ができていくということもあります。発掘していくと、アートや自然との親しみみたいな所で、特徴を持った市民グループと一緒に色々な事をやるような仕掛けを用意しておく、サービスの幅を広げられると思います。事業モデルのことで言えば、あまりプレイヤーのイメージが出なかったのも、その議論が必要というのが一点です。
- ・二つ目は、歴史と自然と言っている歴史の部分が、日本近世の伊達政宗が仙台城を建てたという所に絞られているけれど、それだけが歴史ではないのではないかと

う事です。

- 簡単に言えば、軍の施設造成により仙台の遺構が破壊されたということも歴史、その後、この土地に長く住んでいる方がいたこと。震災を乗り越えて今日があるというように、現代の歴史も含めて歴史と言った時に、伊達政宗より以前も仙台はあった訳ですから、もっと色々な層が表現されるべきだと思います。
- 確かに、牛タンを食べて、伊達政宗についての何かを見て帰るという、分かりやすいパッケージも必要ではありますが、それだけでは層が薄い。もっと、重層的なものを考えなくてはいけないと思います。
- 同じ話になりますが、市民団体、特にもう少しマニアックな内容、エッジの効いた事の出来る人たちを呼び込んで行くことが必要です。
- 伊達政宗に興味があれば、この場所ではもう少し詳しい内容も知ることが出来る、という事が期待できるというイメージが必要なのではないかと思います。
- とりあえず伊達政宗を出しておけば OK という事ではダメで、もう少し攻めないといけないというのが二つ目です。
- 三つ目は、利用時間についてです。朝と夜の時間帯をうまく使わないといけない。
- お年寄りがたくさんいますので、朝早く来て体操したり、公園の中を散歩したりという利用もあると思います。
- しかし、夜明け前から夜明け頃、あるいは日没後や夜という時間帯を考えた時に、仙台といえば国分町、少し意味合いが違うかもしれませんが、それ以外のナイトライフが出来る施設がないと思います。
- 夜の公園と言っただけで急に淫靡に聞こえますが、公園としての施設を開放できる時間、庭では時間に限界があるかもしれないが、その前後の許容度をどれだけ持てるかだと思います。
- 空間をどのくらいオープンにするかという話は渡部委員からもありましたが、使っている時間に散歩で通り抜ける、ジョギングで利用するという事の他に、夜遅く行っても大丈夫という事が必要だと思います。
- 日常利用という、いかにも公園らしい明るい緑の中というシーンだけではなく、夜とか夜明け頃とか、色々な音がするような所について話していくことが、幅を広げる事の1つとしてあるのかと考えます。
- 四つ目は、建築の事です。資料に外観イメージが示されておりました。これで決定、この中から選ぶという事ではないという説明ではありましたが、やはりどんな建物かというのは重要です。
- ここで建築を直接決められるわけではないので、デザインをするプロセスをきちんとするという事が重要だということです。
- 最悪なのは、誰かよく分からない、どう決まったか分からない建築家が設計し、安っぽい郊外店舗みたいなものが出来たという事になることです。

- ・みなさん誤解がありますが、良い建築家を選んで造ると値段が高くなるという事はありません。予算をきちんと伝え、この予算内で造りますと伝えれば、建築家はたいがい頑張ります。才能のある、ガッツのある建築家を選び、その人に最大限の想像力を発揮していただき、いいものを造るというプロセスを踏むことをしていただけるといいなと思います。
- ・建築家の想像力が価値を高めた例としては、仙台であればメディアテークがあります。金沢であれば21世紀美術館などがあります。
- ・良い建築が、より現代的な形で出来るだけで求心力を持ちます。繰り返しますが、単価が高ければ良いというものではありません。安くて良いものもあります。
- ・先ほどの歴史の話とも関係がありますが、歴史的な場所だから、見た目を昔っぽい感じに造るというのは、簡単に言えばインチキになります。今造るのですから、現代的な想像力が十分に込められたものをきちんと造り、四百年前には城があって、21世紀の初めにこういう物を造りましたという。重層していくことが歴史かと思えます。是非、現代的な想像力を使った良い建築を造れるようなプロセスを踏んでいくよう望みます。
- ・具体的には、コンペをするなど、建築家の選定を開かれたプロセスで行う事も必要と思っております。方法は難しいが、形を具体的に言うてしまうのは、必ずしも良い方法ではないと思います。
- ・例えば、歴史を感じさせる日本的である事という抽象的なイメージは良いが、一枚の大屋根、屋根は瓦という風に具体的に決めてしまうと、途端に想像力の幅が狭まってしまいます。これは良い発注の仕方ではありません。幸い日本には才能のある建築家が沢山おられますので、彼らが奮い立ち、よし仙台で良いものを作ろうと思えるようなプロセスを組み込んでいただければと思います。
- ・メディアテークの完成以降、仙台市内にそれに続く建物がほとんど見当たらない。力のあるものが造れるという事を、是非、提案したいと思えます。

#### ○渡部委員

- ・スケジュールが非常に厳しいという話がありましたが、既に遺構調査は済んでいたと思えます。先ほど榊原委員からもあった公園センターの配置について、検討する余地があるか教えてほしいと思えます。

#### ○事務局（百年の杜推進部長）

- ・平成24年から平成26年までの3年をかけて埋蔵文化財として発掘調査をしてきており、おそらくこの位置が、一番、歴史的に大切な場所と推定される所を調査しています。その部分は発掘して、どういう物があったかを調査しましたが、広瀬川沿いの方に建物を建てるという考え方になったとすれば、再度、埋蔵文化財の発掘調査というものが必要になります。必然的に整備が遅れていく事になるかと思えます。
- ・歴史の部分というのは非常に大切な部分でもあり、そういうバランスも考えながら

進めていかななくてはなりませんし、広瀬川の石垣も、歴史的なものと考えておりますので、それを整備するとなれば調査が必要かと思えます。

○本江座長

- ・現在、想定されている場所は大丈夫だが、広瀬川側や、北側に寄せるとなると、調査等があらためて必要になるということですね。

○事務局（百年の杜推進部長）

- ・当初の建設予定地のエリアは、文化財調査が完了しています。このエリア外になるということになれば、また調査が必要になるということです。

○本江座長

- ・初回という事もあり、色々なサービスの所から具体的な土地のことや建築のことについても色々なご意見をいただきました。次回の懇話会は今日出た意見を整理し、とりまとめたものを説明して頂けると思えます。
- ・今回、理解されたこと、論点が沢山あったと思えますので、次の懇話会までに色々と考えていただければと思えます。
- ・議事としてはこれで終了いたします。

## 6. その他

○事務局（公園課長）

- ・次回は、今回の意見を取りまとめ、7月上旬の開催を予定しております。その際、榊原委員からお話がありました、現地での開催も含めて設定したいと思います。次回の懇話会まで、ご意見や参考資料等がある場合は、ご連絡をお願いしたいと思います。
- ・委員の方々からお話がありました公園センターの名称でございますが、是非、この機会に、この施設の内容、この場所に相応しい魅力ある名称をご提案いただければと考えております。

○本江座長

- ・これで、全ての議事は終了とします。

## 7. 閉会

（建設局長挨拶）

- ・公園センター予定地である追廻地区は、非常に重要な場所だと思っており、各委員のそれぞれのお立場でご意見をお伺いし、それだけの魅力、期待が込められた場所だということを、改めて思わざるを得ない状況でございます。次回につきましても、委員の方々の自由闊達なご意見、それぞれ専門の立場でのお考え等を聞かせていただくためにも、いろいろなシチュエーションを考えながら、進めてまいりますので、今後共どうぞよろしくお願いしたいと思います。

○事務局（公園課主幹兼青葉山公園整備室長）

- ・以上を持ちまして、第1回青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会を閉会いたします。

○事務局一同

- ・ありがとうございました。

（以上）